

エゾシカの有効活用の現状

令和元年（2019年）5月

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課

エゾシカ肉処理施設の状況

【エゾシカ肉処理施設の状況】

- H22年度からの8年間、施設数は80～100の間で、概ね増加傾向（P7 グラフ1）
- 振興局別施設数は、釧路、十勝、オホーツク、根室と東部地域に多くあり、ついで西部の上川、胆振、日高の順となっている。
- 振興局別処理頭数は、日高、釧路、オホーツクが4千頭を超え、ついで十勝が約3千頭、さらに、根室、宗谷、上川と続いている。（P8 グラフ2）
- 地域別にみると、施設数割合（H29年度）は、東部64%、西部34%、南部2%で、処理頭数割合（H29年度）は、東部55%、西部44%、南部1%

【食肉処理の現状】

- 振興局別捕獲頭数は、釧路、日高が2万頭を超え、十勝、胆振、オホーツクが1万頭を超え、上川、空知、根室、宗谷の順となっている。（P9 グラフ3）
- 地域別にみると、捕獲頭数割合（H29年度）は、東部47%、西部50%、南部3%
- 「振興局管内別 食肉処理頭数／捕獲頭数」（H29年度）をみると、高い方から、石狩45%、日高42%、オホーツク32%、以下根室、宗谷までが全道平均20.5%を超え、続いて、十勝、釧路、上川までが10%を超え、胆振、渡島、留萌が3～6%、後志、空知、檜山が1%未満となっている。（P10 グラフ4）

※地域区分は下記による

東部：オホーツク、十勝、釧路、根室

西部：空知、石狩、胆振、日高、上川、留萌、宗谷

南部：後志、渡島、檜山

食肉処理の現状

- 処理頭数クラス別の施設数割合（H29年度。処理実績なしを除く）は、50頭未満が30%と最も多く、ついで50～99頭が15%であり、100頭未満が約半数を占めており、500頭以上処理している施設は17%となっている。（P11 グラフ5）
- 一方、処理頭数クラス別の処理頭数割合（H29年度）は、千頭以上の施設が45%、500～999頭の施設が29%を処理していることから、17%の施設で、74%の頭数を処理していることとなる。（P11 グラフ6）

【まとめ】

- エゾシカ肉処理施設数、処理頭数、管内の処理頭数／捕獲頭数は、東部の方が多い（高い）。
- 捕獲頭数は、西部の方が多い。
- 西部は、活用が進んでいる振興局と、活用されていない振興局が二極化している。
- 大規模な処理施設（処理頭数500頭以上）が、74%の頭数を処理している。

処理施設の受入条件、オス・メス割合

【受入条件】（P12 グラフ7）

- 受入条件（性別・年齢）については、性別により上限年齢が異なる（オスの方が上限年齢が低い）施設は2割で、8割は性別による差は設定していない
- メスについては、無制限の施設が5割を超え、5歳までを加えると3/4の施設で受け入れている
- オスについては、無制限の施設が4割、5歳までを加えると6割、4歳までを加えると3/4の施設で受け入れている

【搬入のオス・メス割合】

- H30ジビエ利用拡大推進事業の実績によると、オス・メス割合は、ほぼ半々（P13 グラフ8）
- 月別に見ると、10・11月はオスの搬入頭数が多く、12・1月はメスが多くなっており、メスがほぼ一定であった一方、オスは10・11月の搬入頭数に対し、12・1月の搬入頭数は7割減となった（P13 グラフ9）
- 全ての地域において、メスの割合が後半上昇していることから、エゾシカの生態（10・11月は繁殖期のため、オスの動きが活発になる）の影響が考えられる（P13 グラフ10）

捕獲頭数のオス・メス割合

【捕獲頭数のオス・メス割合】

- H29年度の実績を月別にみると、10、11月のみオスの割合が高く、それ以外の月はメスの割合が高くなっている。(P14 グラフ11)
- 年度合計では、メスが6割を占めている。(P14 グラフ13)
- 10・11月は繁殖期のため、オスの動きが活発になることの影響が考えられ、猟期が10～3月であることから、通年（あるいは猟期を除く時期）行われている許可と比べると、狩猟におけるオスの割合が高くなっているものと考えられる
- 平成6年度のメスジカ狩猟解禁時には、オスの割合が7割を超えていた(P15 グラフ11)
- 平成10年度に、メスジカ捕獲の誘導に向け、狩猟者1人1日当たりの捕獲頭数の緩和が行われたことなどにより、メスの捕獲が増加し、平成11年度からはメスの頭数がオスを上回った(P15 グラフ14)
- 平成16年度に、メスジカの1日当たりの捕獲制限を撤廃されて以降、メスの割合が上昇し、近年では約6割となっている。(P15 グラフ15)
- 狩猟・許可別にみると、狩猟においてはH16年度以降、メスの頭数が多くなっているものの、近年では、あまり大きな差が生じていない。(P16 グラフ16)
- 一方、許可においては、平成6、7年度においては、若干オスの割合が高いもののほぼ同数であったが、平成8年以降、メスの割合が一貫して高く、近年では6割程度(P16 グラフ17)

搬入の現状、捕獲個体の用途

【捕獲頭数の曜日割合】

- 平成29年度の実績を曜日別に見ると、総計では、日曜22%、土曜16%、月～金は11～12%、祝日が5%となっており、週末の捕獲が多い。（P17 グラフ18）
- 許可においては、週末が少し多い（日曜19%、土曜16%）ものの、月～金（12～13%）と大きな差はなく、平日も出猟可能な人数が多いものと考えられる。
- 一方、狩猟においては、日曜が28%と突出して高く、ついで土曜が18%、月～金は8～10%と、週末の捕獲の割合が高くなっており、週末のみ出猟している人数が多いものと考えられる。

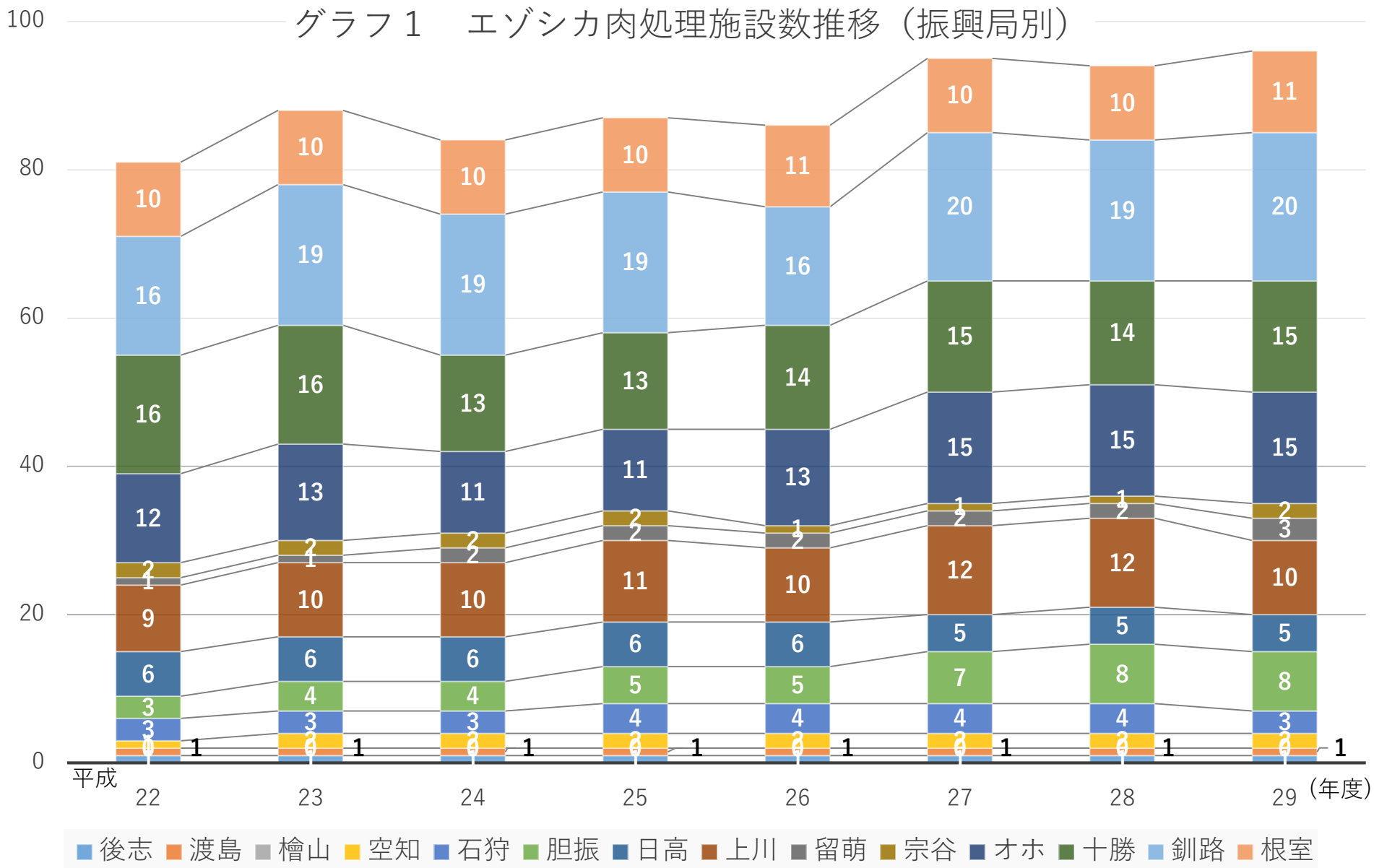
【捕獲個体の用途】

- 平成22年度に実施した猟友会会員へのアンケートによると、「自家消費」54%、「食肉処理施設への搬入」12%、廃棄等33%となっている（P18 グラフ19）
- 平成29・30年度に実施した狩猟免許保持者へのアンケートによると、「自家消費」42%、「食肉処理施設へ搬入」17%、「ペットフード業者へ搬入」6%、廃棄等35%となっている（P19 グラフ20）
- このことから、自家消費していた個体の一部が、食肉やペットフードなどの活用されるようになったものと考えられる。

【一人当たりの搬入頭数】

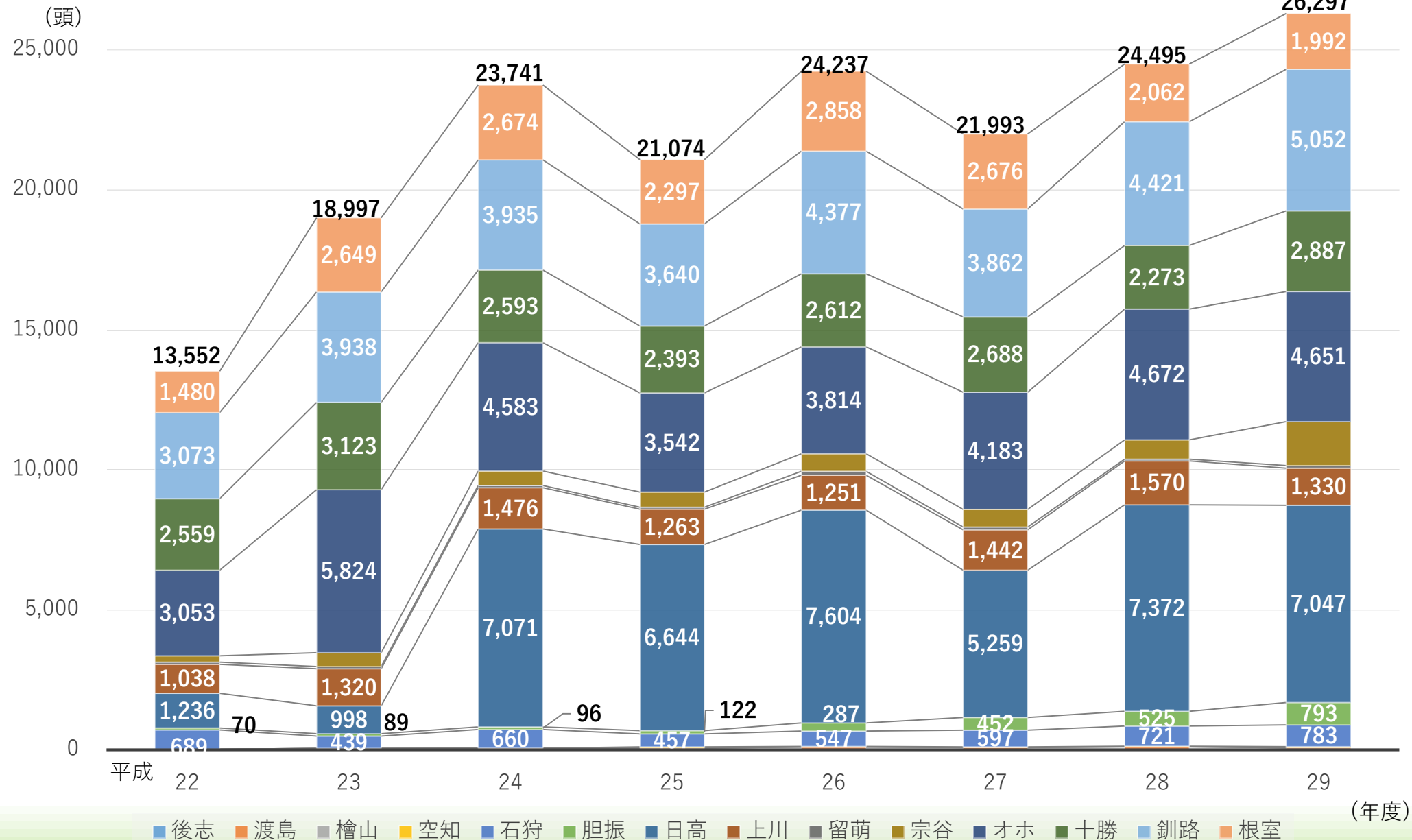
- 平成30年度ジビエ利用拡大推進事業の搬入実績が1頭以上の326人の内訳は、2～10頭が41%と最も多く、ついで11～20頭が18%と、1頭の8%を合わせた20頭以下が約7割を占めている。（P20 グラフ21）
- 一方、搬入頭数の割合では、100頭以上の13名（4%）による搬入が約3割を占め、50頭以上の33名（10%）による搬入が約半数を占めている。

グラフ1 エゾシカ肉処理施設数推移（振興局別）



※ 枝肉のみを処理する施設を除く

グラフ2 食肉処理施設における処理頭数の推移（振興局別）

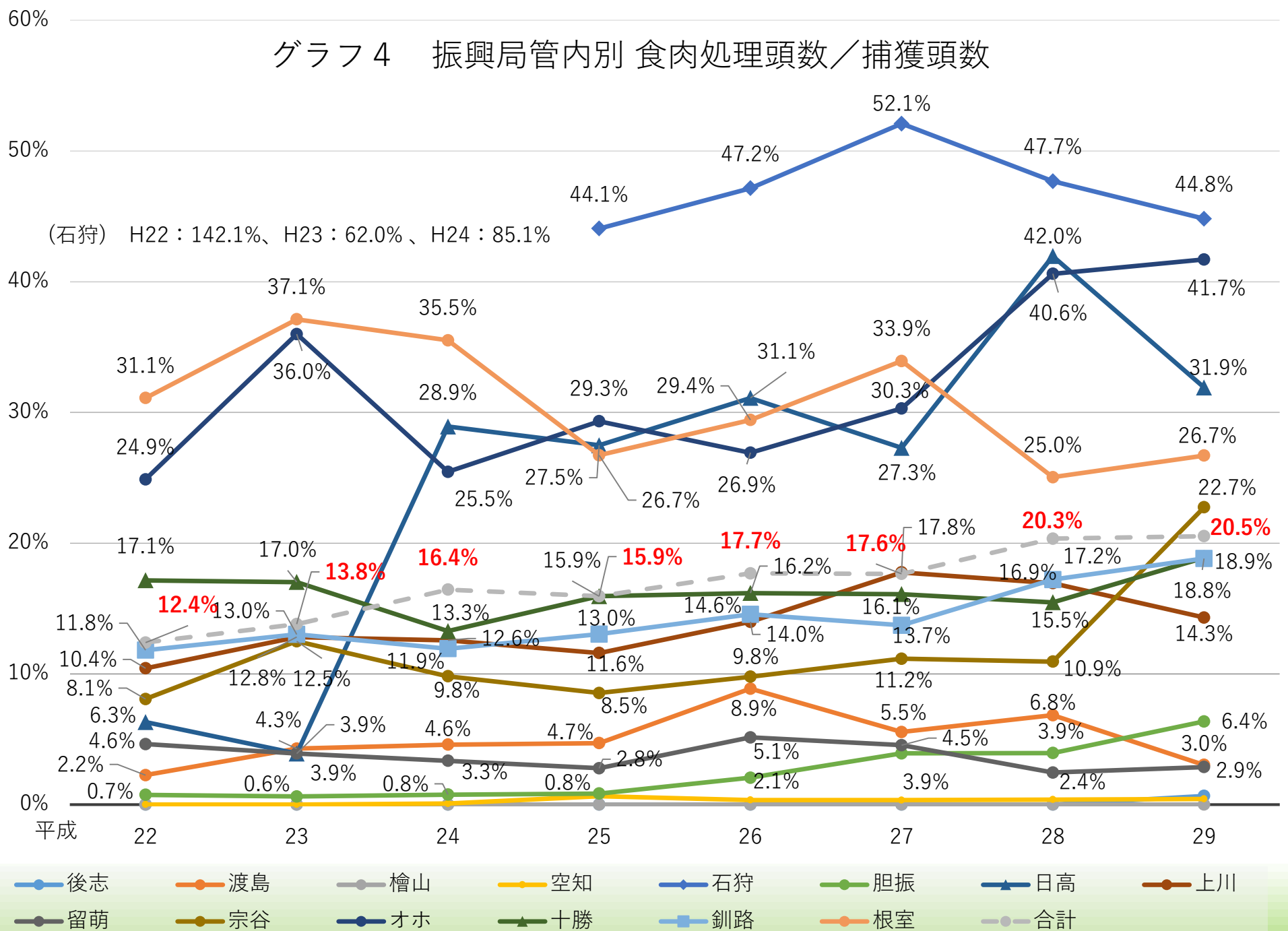


※ 施設数が1～2施設の振興局（後志・渡島・檜山・空知・留萌・宗谷）については、頭数を表示しない

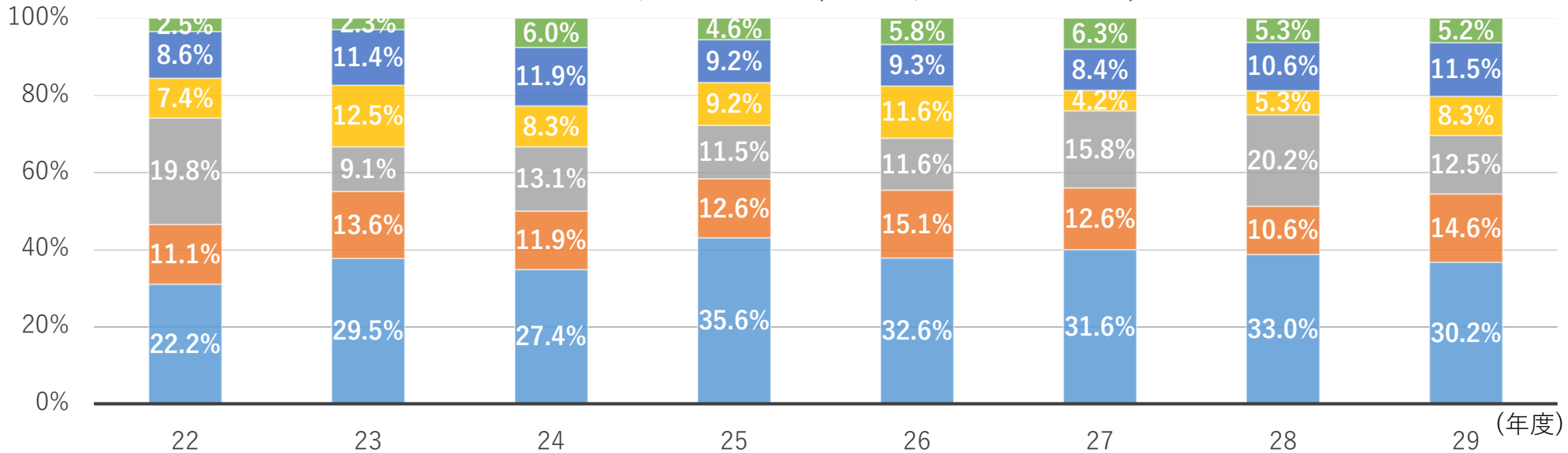
グラフ3 捕獲数推移（振興局積み上げ）



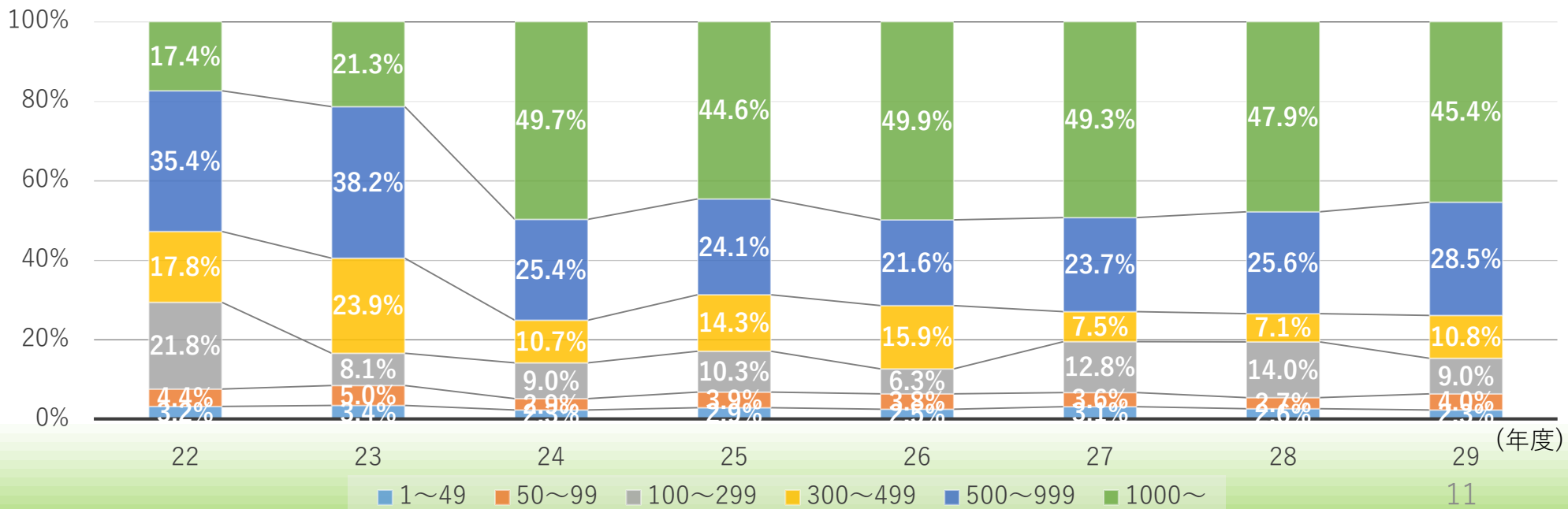
グラフ4 振興局管内別 食肉処理頭数／捕獲頭数



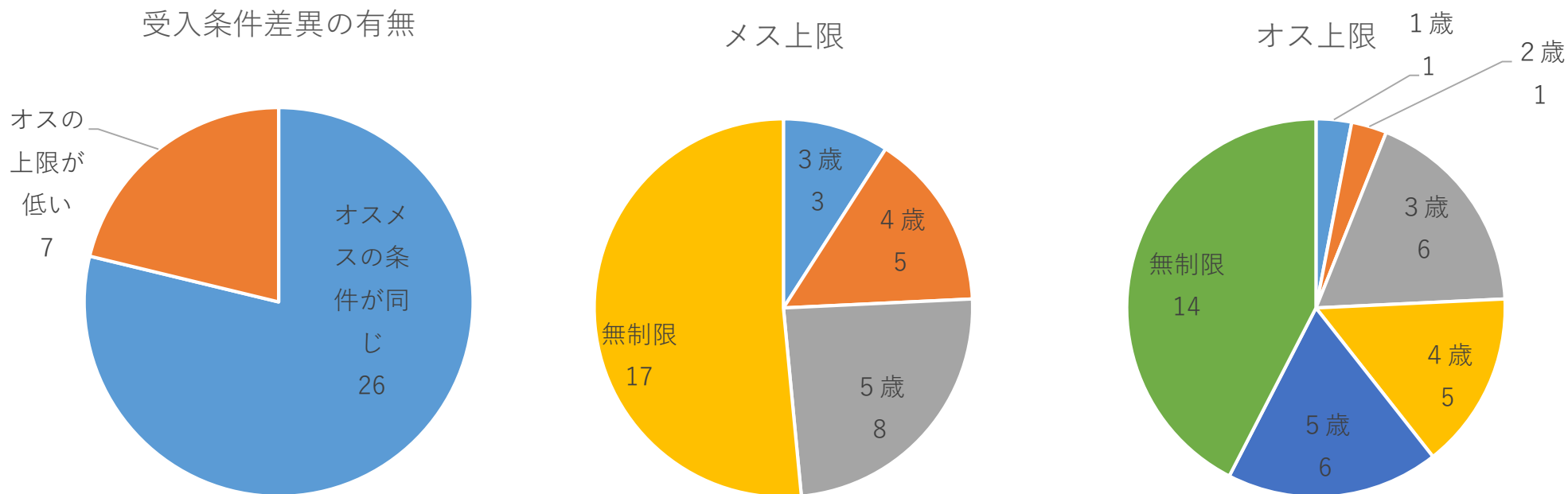
グラフ5 施設数割合（処理頭数クラス別）



グラフ6 処理頭数割合（処理頭数クラス別）

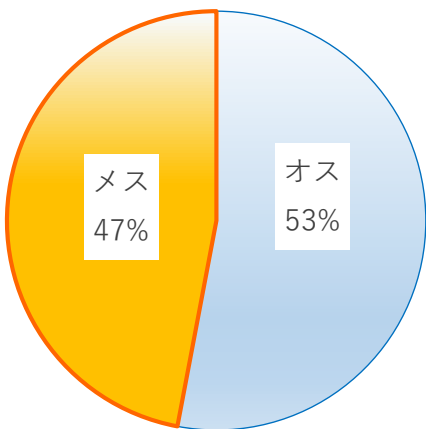


グラフ7 受入条件（性別・年齢）について

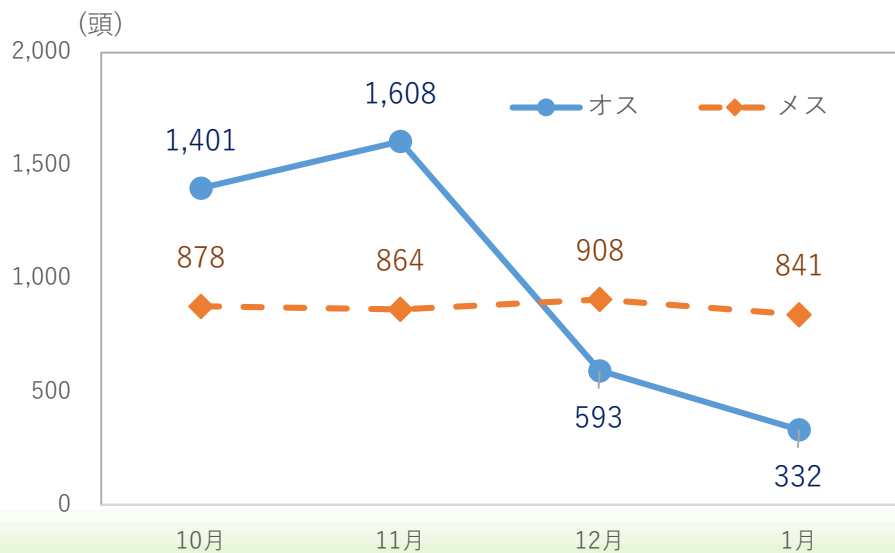


※ 対象はジビエ利用拡大推進事業参加の33施設

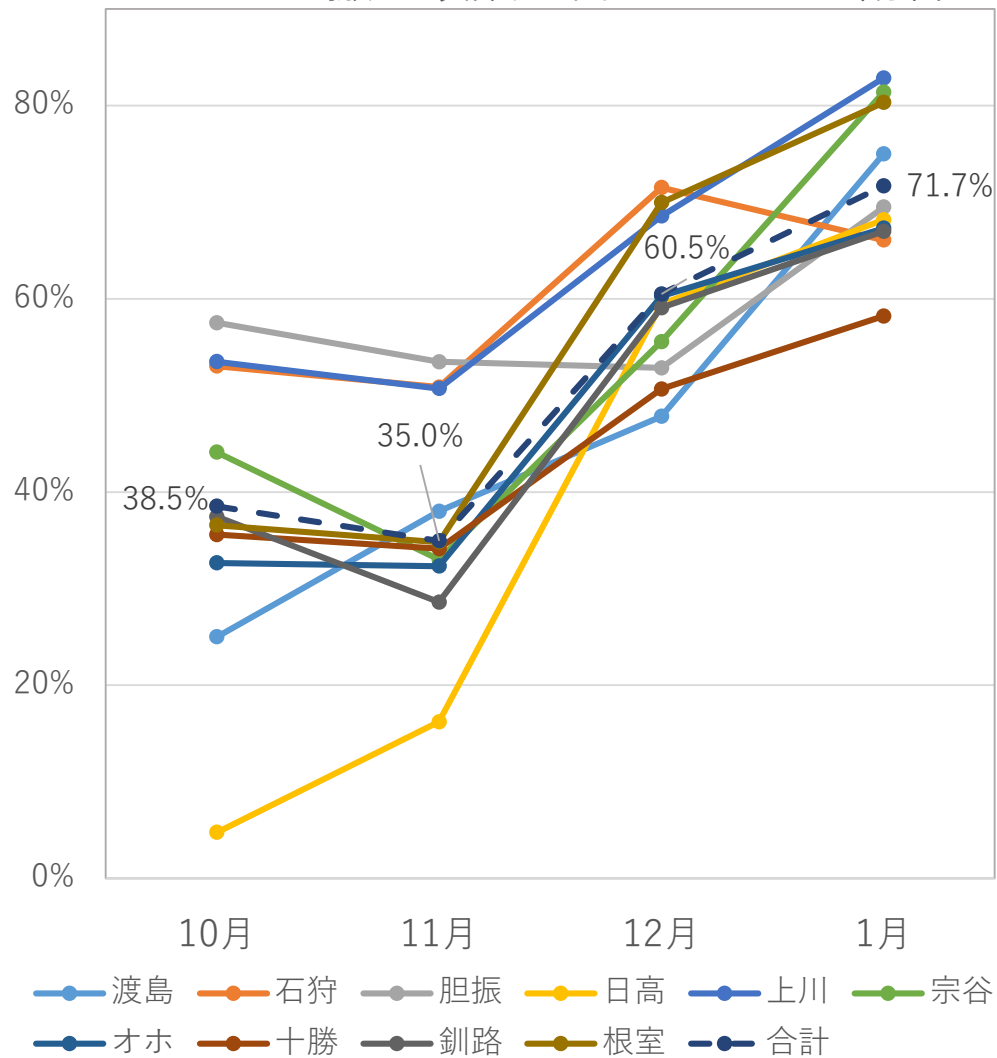
グラフ8 オス・メスの割合
(期間合計)



グラフ9 搬入頭数 (月別、オス・メス別)



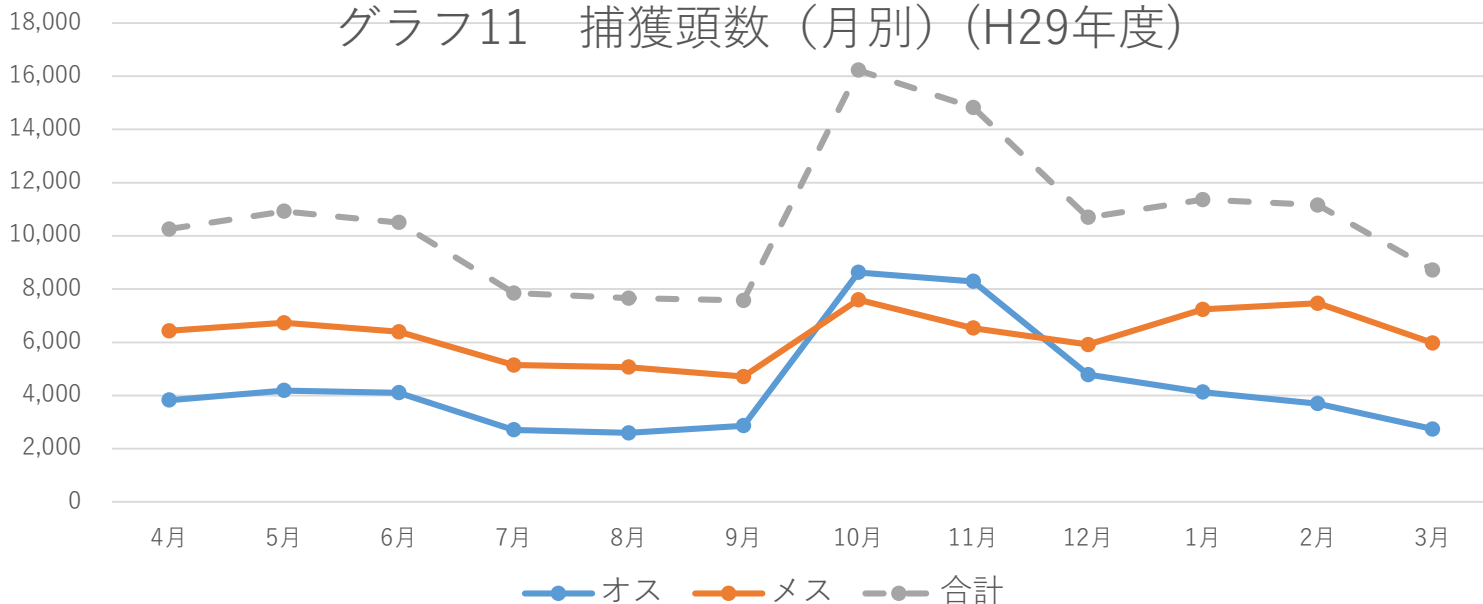
グラフ10 搬入頭数に占めるメスの割合



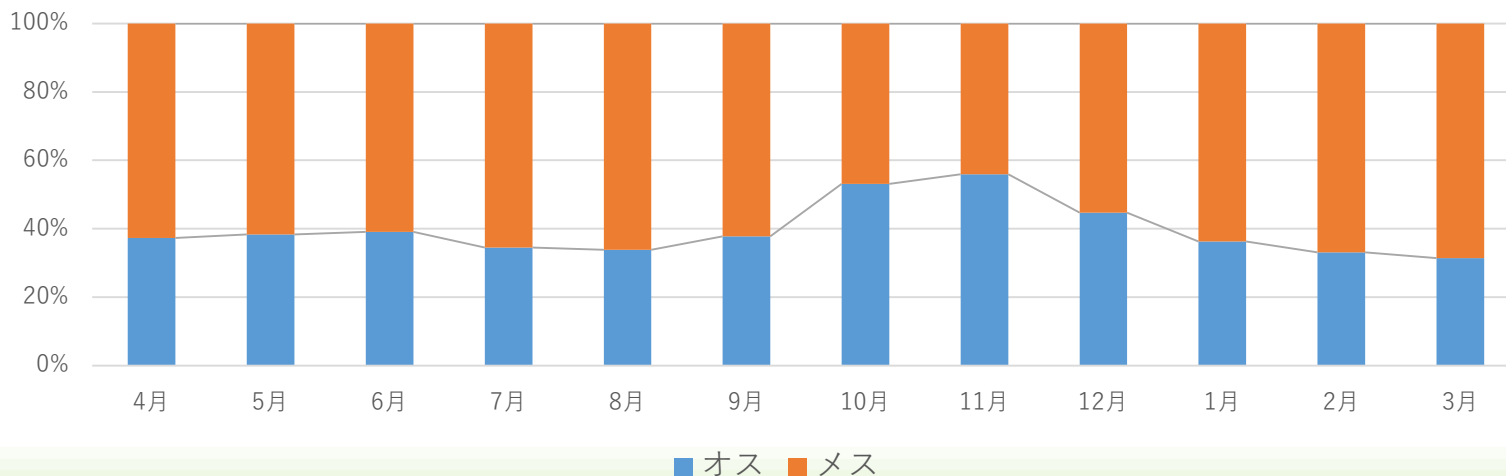
※留萌は搬入頭数が少ないため、檜山は搬入施設がないため掲載しない

※ 対象はH30ジビエ利用拡大推進事業により搬入された7,425頭

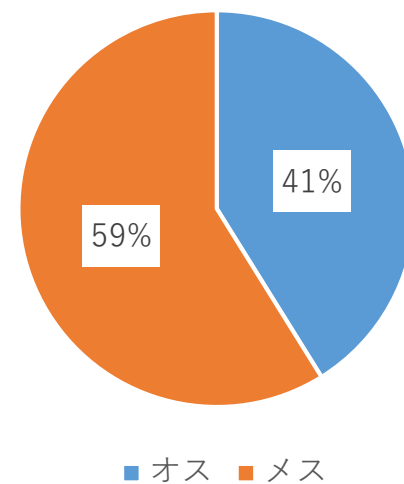
グラフ11 捕獲頭数（月別）（H29年度）



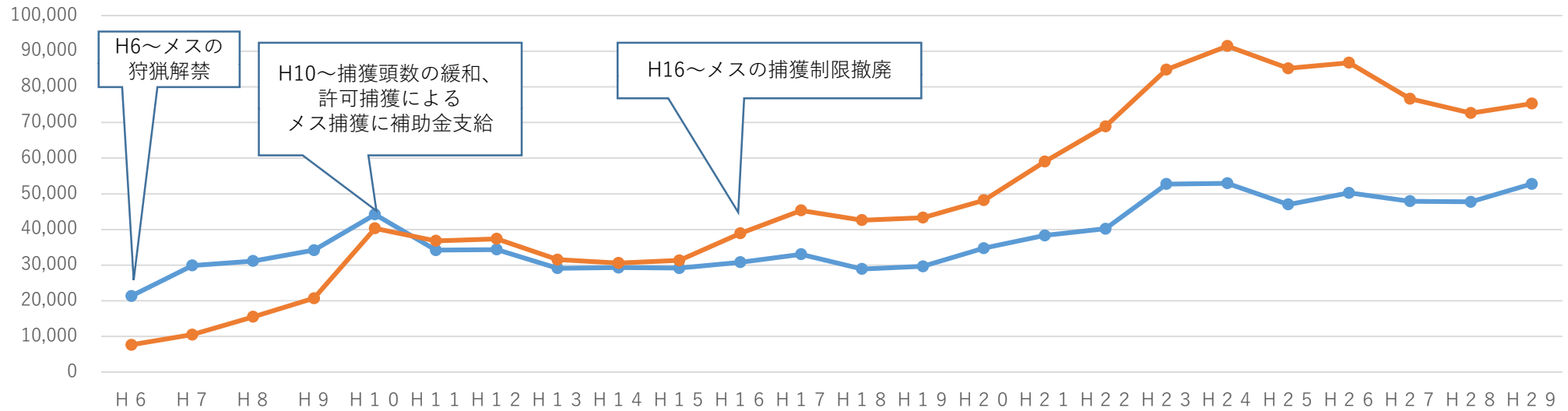
グラフ12 捕獲頭数割合（月別）（H29年度）



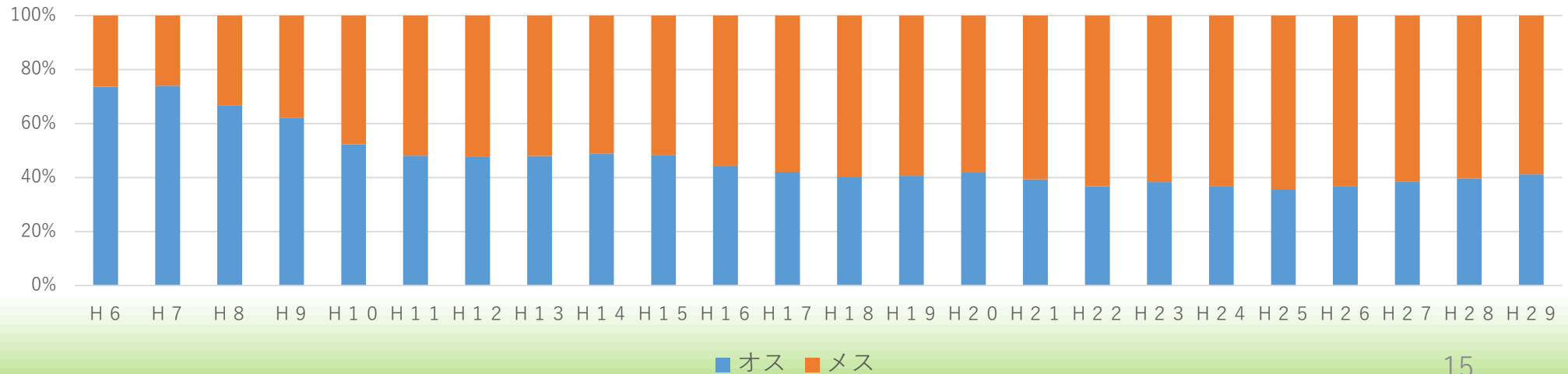
グラフ13
捕獲頭数割合
(H29年度)



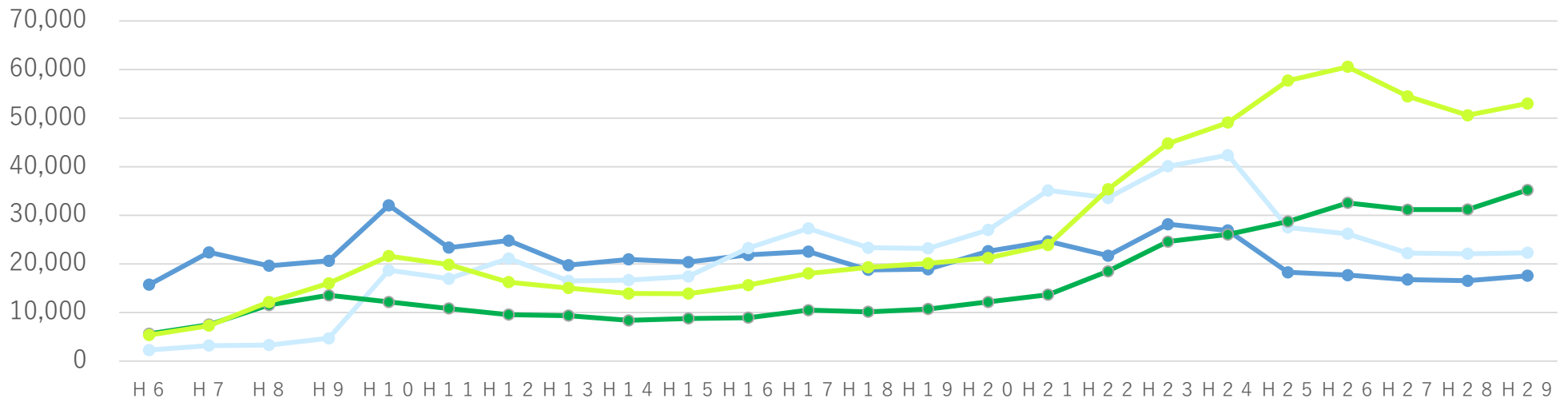
グラフ14 捕獲数の推移（オス・メス別）



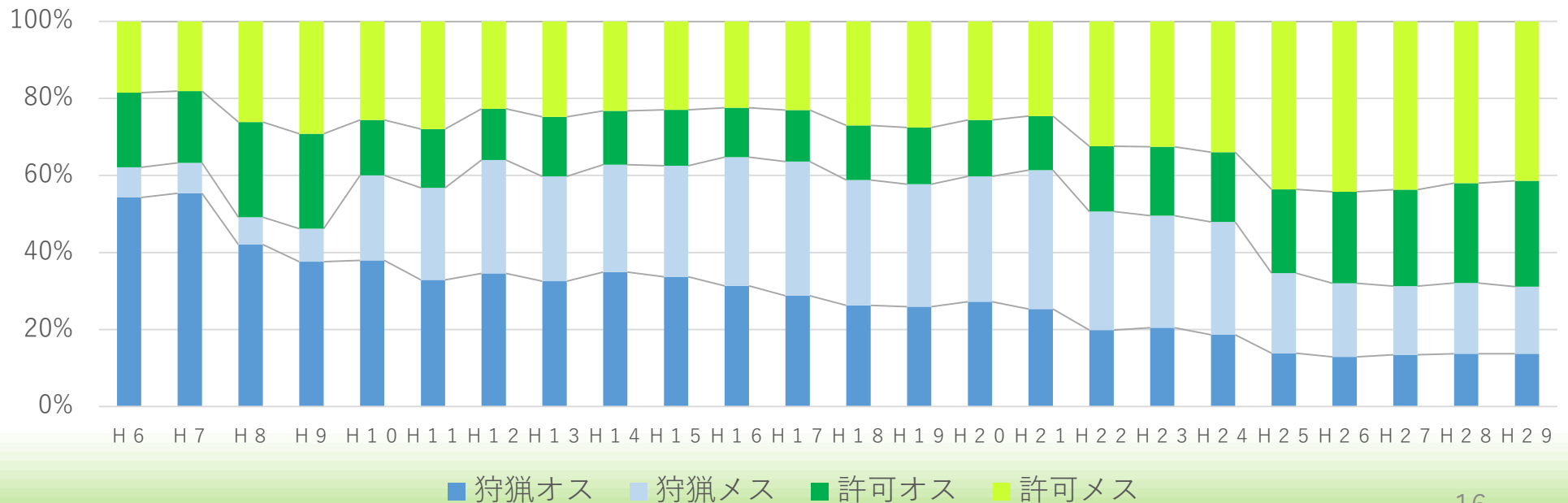
グラフ15 捕獲数割合の推移（オス・メス別）



グラフ16 エゾシカ捕獲数（狩猟・許可、オス・メス別）

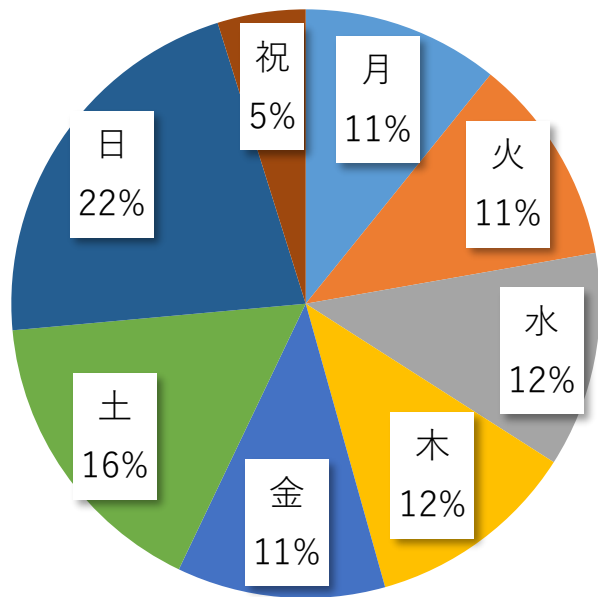


グラフ17 エゾシカ捕獲数割合（狩猟・許可、オス・メス別）

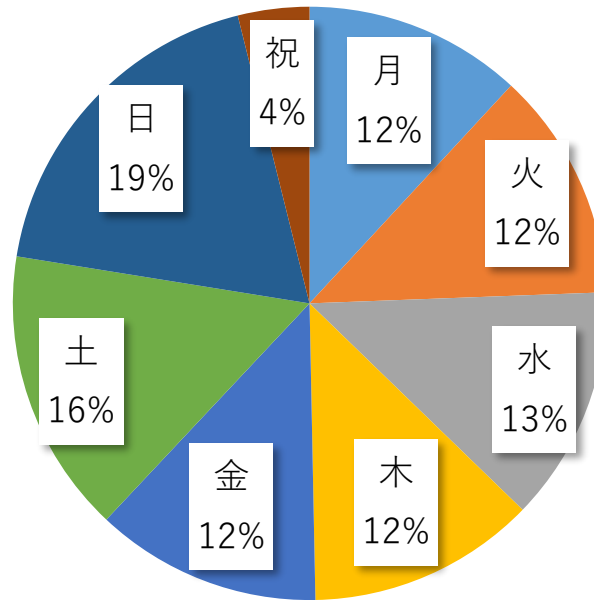


グラフ18 捕獲数割合(曜日別)(H29年度)

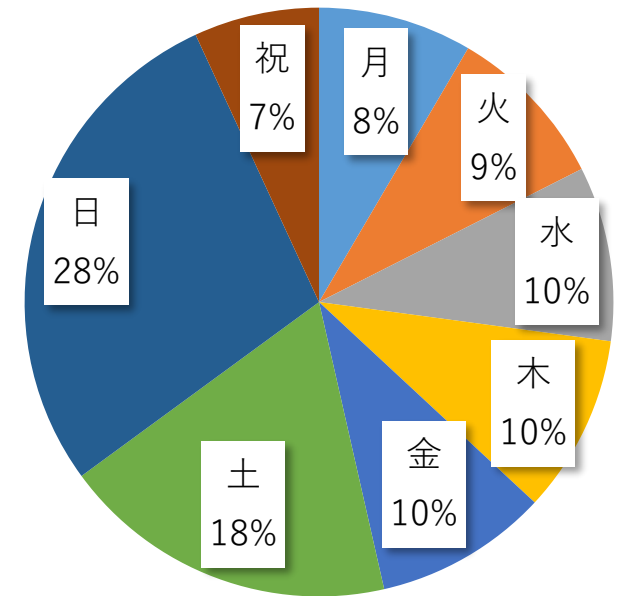
総計(許可 + 狩猟)



許可

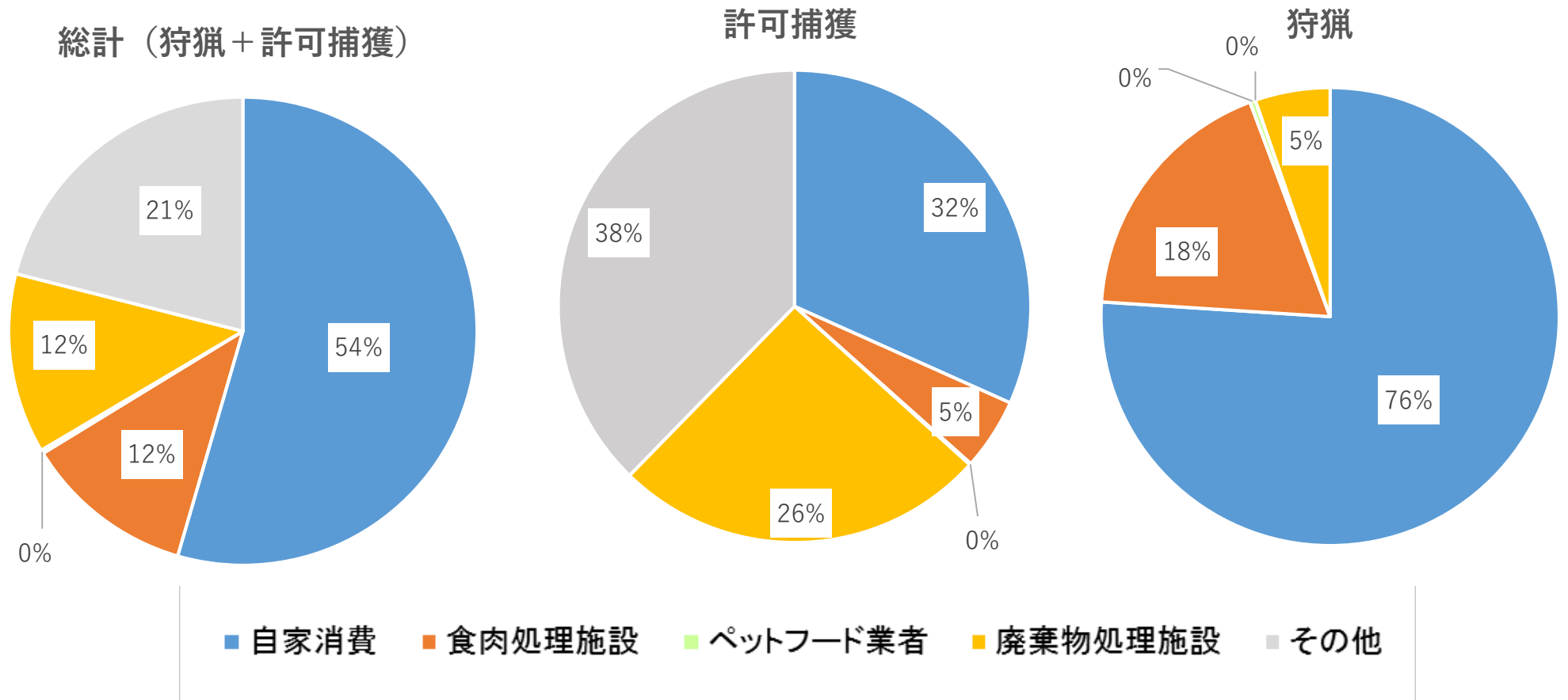


狩猟



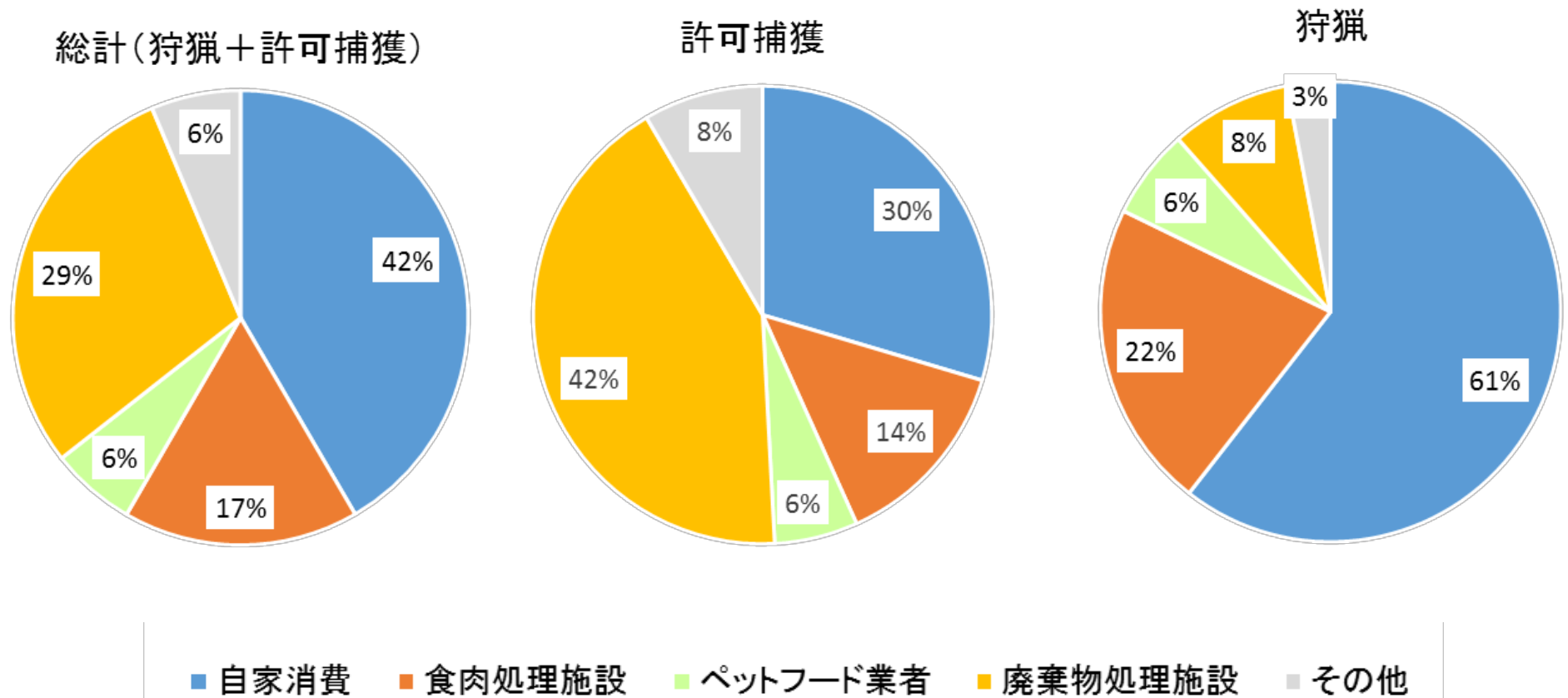
■ 月 ■ 火 ■ 水 ■ 木 ■ 金 ■ 土 ■ 日 ■ 祝

グラフ19 捕獲個体の用途について（H22年度）



- ・平成22年度エゾシカ活用実態調査事業によりアンケート調査を実施
- ・全道各地のハンター296名から回答
- ・許可捕獲4,199頭、狩猟4,437頭が対象

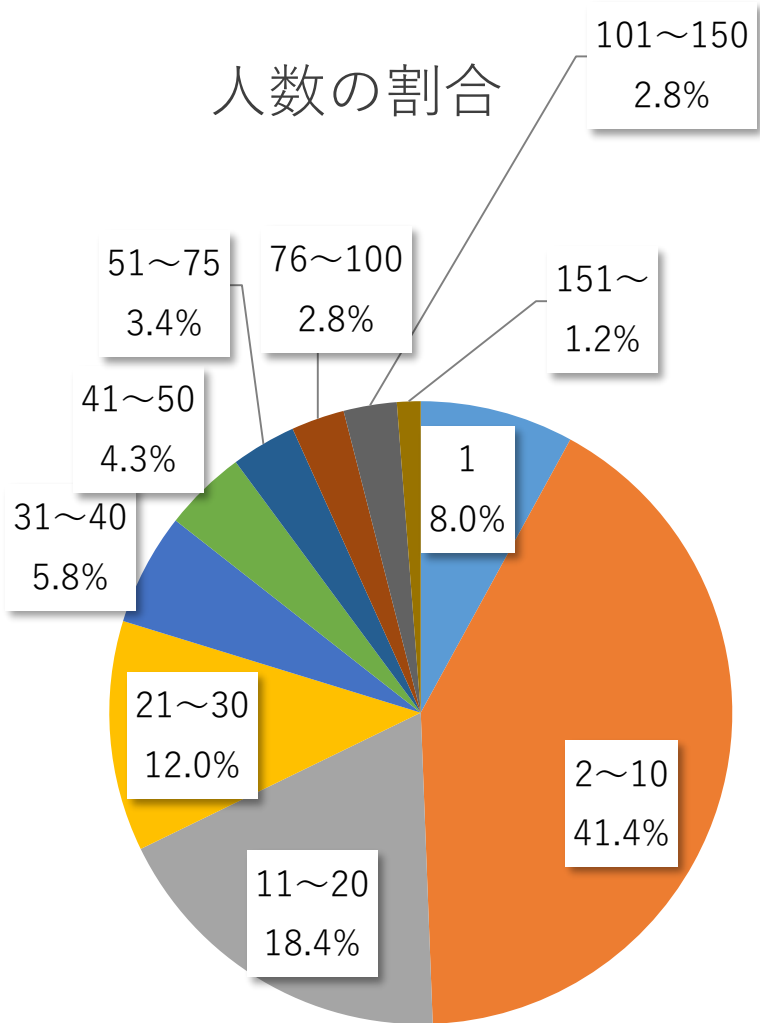
グラフ20 捕獲個体の用途について (H29・30年度)



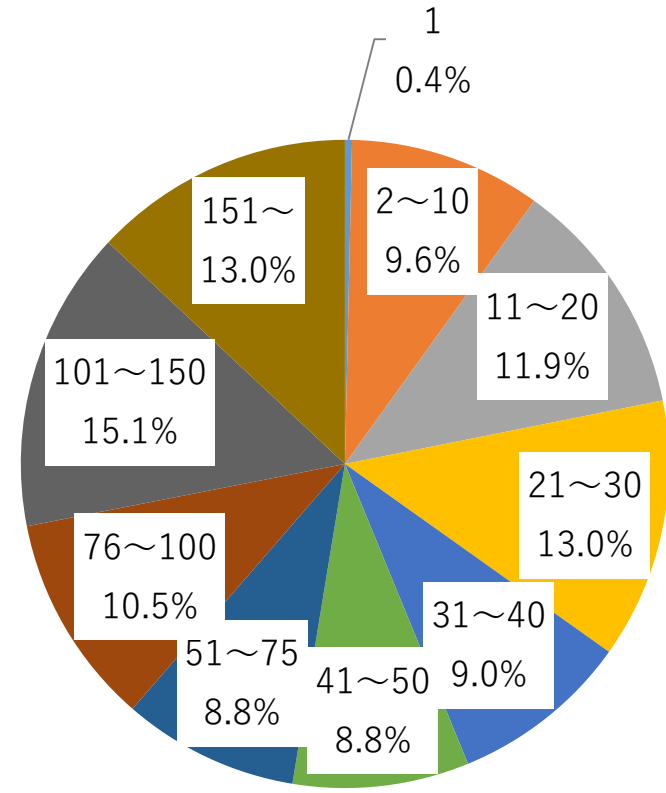
- ・ 狩猟免許更新適性検査・講習受講者にアンケートを実施(平成29・30年度)
- ・ 全道各地のハンター2,890名から回答
- ・ 許可捕獲43,453頭、狩猟27,493頭が対象

グラフ21 一人当たりの搬入頭数（H30年度）

人数の割合



搬入頭数の割合



搬入頭数区分	人数	搬入頭数
1	26	26
2~10	135	711
11~20	60	886
21~30	39	964
31~40	19	665
41~50	14	653
51~75	11	652
76~100	9	783
101~150	9	1,118
151~	4	967
合計	326	7,425

■ 1 ■ 2~10 ■ 11~20 ■ 21~30 ■ 31~40 ■ 41~50 ■ 51~75 ■ 76~100 ■ 101~150 ■ 151~

※ 対象はジビエ利用拡大推進事業により1頭以上搬入した326人、7,425頭